

I. 「学生による授業評価 2017」の概要

I-1. 目的

本学では、授業に関する学生の理解の状況や満足感・充実感等を把握することによって、教育内容や教授方法、講義資料及び学習支援システム・施設等の改善に資することを目的とし、2005年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入した。今年度は、第13回目となり、例年の通り2017年度に新規開設した科目を評価の対象とした。

以下、その量的分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) **個別授業科目の改善支援**……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) **カリキュラム全体の改善支援**……コースまたは領域、プログラム(群)における、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) **認証評価に関わる資料提供**……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のような放送大学に固有のいくつかの条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるからである。

第1に、放送大学では、収録された放送授業を4～6年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する(つまり、評価の次年度に改訂版を収録する)ことが非常に難しいのである。

第2に、放送大学の主任講師は半数程度が客員教員であり、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。主任講師が交代すると、科目の内容や構成が変わってしまう場合があるため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。

第 3 に、放送大学は公開大学であり学部には入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる授業調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことは言うまでもない。

そして、第 4 に、放送大学は教員の 5 年任期制を採っており、再任のためには 5 年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、上述した第 3 の特性を持つ授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

I-2. 構成と内容

本学生による授業評価調査（放送授業）は、大きく分けて 3 つの部分からなっている。

第 1 は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について 4 段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の 2 つに分かれる。

第 2 は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらう形態を採った。

そして、第 3 は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については 197、198 頁を参照されたい。

I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、2017 年度第 1 学期に本学で開講していた放送授業のうち、今年度に開設した科目及び前年度第 2 学期に開設した科目（開講 1 年目の科目）、学部 50 科目、大学院 14 科目、計 64 科目である（表 1-1 参照）。このような選定システムにすることで、開設後 4 年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず 1 回授業評価の対象とされることになる。

表 1-1 コース・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数

【学部】					【大学院】				
コース	科目数		有効回答		プログラム	科目数		有効回答	
	2017年度		2017年度			2017年度		2017年度	
	全開設	評価対象	人数	構成比		全開設	評価対象	人数	構成比
基盤科目	2	2	189	4%	生活健康科学	2	2	65	9%
基盤科目(外国語)	3	3	286	6%	人間発達科学	3	3	133	19%
生活と福祉	8	8	831	18%	人文学	2	2	148	21%
心理と教育	10	10	958	21%	情報学	1	1	25	4%
社会と産業	12	12	1,010	22%	社会経営科学	4	4	154	22%
人間と文化	4	4	441	10%	臨床心理学	2	2	180	26%
情報	3	3	219	5%	全体	14	14	705	100%
自然と環境	7	7	528	12%					
夏季集中科目(司書)	1	1	62	1%					
全体	50	50	4,524	100%					

※構成比は、四捨五入しているため、各項目を合計しても100%にならない場合がある。

調査票の配布は、これら 64 科目の全受講登録者を母集団とし、学部科目では各 250 名（登録者がそれ未満の科目は全数）、大学院科目では各 200 名（同）をそれぞれ無作為抽出して得られた学部 11,515 名、大学院 1,512 名、計 13,027 名（いずれも延べ人数）に、回答すべき科目を予め指定した上で、郵送により行なった。

また、回収も郵送により行ない、調査期間は第 1 学期単位認定試験終了後の 8 月中旬から 9 月末までの約 50 日間とした。有効回答数は学部 4,524 票、大学院 705 票、計 5,229 票であった(表 1-2 参照)。無記名調査ながら、有効回答率は学部 39.3%、大学院 46.6%、全体で 40.1%と、2016 年度の有効回答率（2016 年度新規開設科目 学部 40.6%、大学院 48.2%、全体 41.1%）と比較すると学部、大学院共に有効回答率はやや下がっている。

表 1-2 調査対象者数および有効回答率

	2017年新規開設科目			2016年新規開設科目			2015年新規開設科目		
	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率	対象者数	有効回答者数	有効回答率
学部	11,515	4,524	39.3%	12,580	5,108	40.6%	13,698	5,901	43.1%
大学院	1,512	705	46.6%	939	453	48.2%	2,538	1,148	45.2%
計	13,027	5,229	40.1%	13,519	5,561	41.1%	16,236	7,049	43.4%

I-4. 時系列分析

報告書の一部に過去2年度の調査との比較を掲載した。

本調査は原則として開講1年目の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成されるコース（プログラム）を比較対象としてこそ、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目が異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

I-5. 回答者の特性

(1) 回答者の属性分布と母集団との比較

次頁表1-3は、回答者の属性分布と母集団（全受講登録者）の属性分布を比較したものである。両者を比較して、属性分布が回答者と母集団で乖離していないかを検証する。

学部では、男性は+6.2ポイント、女性は-7.8ポイントで母集団との差は男性でプラス、女性でマイナスであった。

年齢階層別では19歳以下から50歳代の5層でマイナスとなり、19歳以下が-0.6ポイント、50歳代は-0.5ポイントと僅かに母集団を下回っていたが、20歳代は-5.9ポイント、30歳代は-6.0ポイント、40歳代は-4.4ポイントと大きな差であった。

60歳代、70歳以上はプラス10ポイントと7ポイントでプラス幅は大きかった。

学生種別では全科履修生は+2.8ポイント、選科履修生は-3.5ポイントで、科目履修生は母集団とほとんど変わらなかった。

一方、大学院の性別では男性が-3.2ポイントであったが、女性は+0.7ポイントの微増であった。

年齢階層では20歳代から40歳代までは2.8~4.3ポイントのマイナス、50歳代から70歳以上はプラスでそれぞれ1.5ポイント、5.1ポイント、3.2ポイントであった。

学生種別では修士全科生だけがプラスで8.1ポイント、修士選科生で-8.5ポイントと母集団との差は大きく、修士科目生は-0.7ポイントと僅かに下回っていた。

なお、ここの比率の高さと回答率の高さが連動してはいないことに留意されたい。

表 1 - 3 回答者の属性分布

【学部】

		2017年新規開設科目			2016年新規開設科目			2015年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	48.2%	42.0%	6.2ポイント	47.4%	42.2%	5.3ポイント	51.2%	53.1%	▲1.8ポイント
	女性	50.2%	58.0%	▲7.8ポイント	51.2%	57.8%	▲6.6ポイント	47.3%	46.9%	0.3ポイント
年齢階層別	19歳以下	0.4%	1.0%	▲0.6ポイント	0.2%	0.9%	▲0.8ポイント	0.4%	1.2%	▲0.8ポイント
	20～29歳	6.8%	12.7%	▲5.9ポイント	7.3%	13.1%	▲5.8ポイント	7.3%	13.8%	▲6.5ポイント
	30～39歳	11.1%	17.1%	▲6.0ポイント	13.7%	20.1%	▲6.4ポイント	12.5%	17.2%	▲4.7ポイント
	40～49歳	20.5%	24.9%	▲4.4ポイント	20.7%	25.8%	▲5.1ポイント	18.5%	20.9%	▲2.4ポイント
	50～59歳	19.1%	19.6%	▲0.5ポイント	18.5%	18.9%	▲0.4ポイント	18.3%	17.7%	0.6ポイント
	60～69歳	27.0%	17.0%	10.0ポイント	26.1%	15.3%	10.9ポイント	27.6%	19.8%	7.8ポイント
	70歳以上	14.7%	7.7%	7.0ポイント	13.0%	5.8%	7.2ポイント	14.9%	9.4%	5.5ポイント
学生種別	全科履修生	75.3%	72.5%	2.8ポイント	66.3%	66.4%	▲0.1ポイント	69.2%	72.2%	▲2.9ポイント
	選科履修生	17.7%	21.2%	▲3.5ポイント	21.0%	26.5%	▲5.6ポイント	16.4%	17.8%	▲1.4ポイント
	科目履修生	6.1%	6.2%	▲0.1ポイント	8.4%	7.1%	1.3ポイント	8.9%	8.1%	0.8ポイント
人数(N)		4,524	-	-	5,108	-	-	5,901	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

【大学院】

		2017年新規開設科目			2016年新規開設科目			2015年新規開設科目		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団 との差
性別	男性	51.1%	54.3%	▲3.2ポイント	65.1%	64.8%	0.3ポイント	52.4%	53.0%	▲0.6ポイント
	女性	46.4%	45.7%	0.7ポイント	33.1%	35.2%	▲2.1ポイント	44.0%	47.0%	▲3.0ポイント
年齢階層別	20～29歳	1.6%	4.8%	▲3.2ポイント	1.8%	3.7%	▲1.9ポイント	3.7%	5.2%	▲1.5ポイント
	30～39歳	9.2%	12.0%	▲2.8ポイント	7.5%	11.4%	▲3.9ポイント	10.5%	14.3%	▲3.8ポイント
	40～49歳	17.2%	21.5%	▲4.3ポイント	18.5%	23.4%	▲4.9ポイント	21.3%	23.6%	▲2.3ポイント
	50～59歳	30.1%	28.6%	1.5ポイント	27.4%	29.8%	▲2.4ポイント	26.7%	28.7%	▲1.9ポイント
	60～69歳	30.8%	25.7%	5.1ポイント	30.7%	24.0%	6.7ポイント	27.0%	21.6%	5.4ポイント
	70歳以上	10.6%	7.4%	3.2ポイント	13.5%	7.8%	5.7ポイント	9.6%	6.6%	3.0ポイント
学生種別	修士全科生	28.6%	20.5%	8.1ポイント	23.4%	17.6%	5.8ポイント	20.1%	18.3%	1.8ポイント
	修士選科生	62.6%	71.1%	▲8.5ポイント	63.1%	70.5%	▲7.3ポイント	66.5%	73.3%	▲6.9ポイント
	修士科目生	7.7%	8.4%	▲0.7ポイント	10.4%	12.0%	▲1.6ポイント	9.0%	8.4%	0.6ポイント
人数(N)		705	-	-	453	-	-	1,148	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

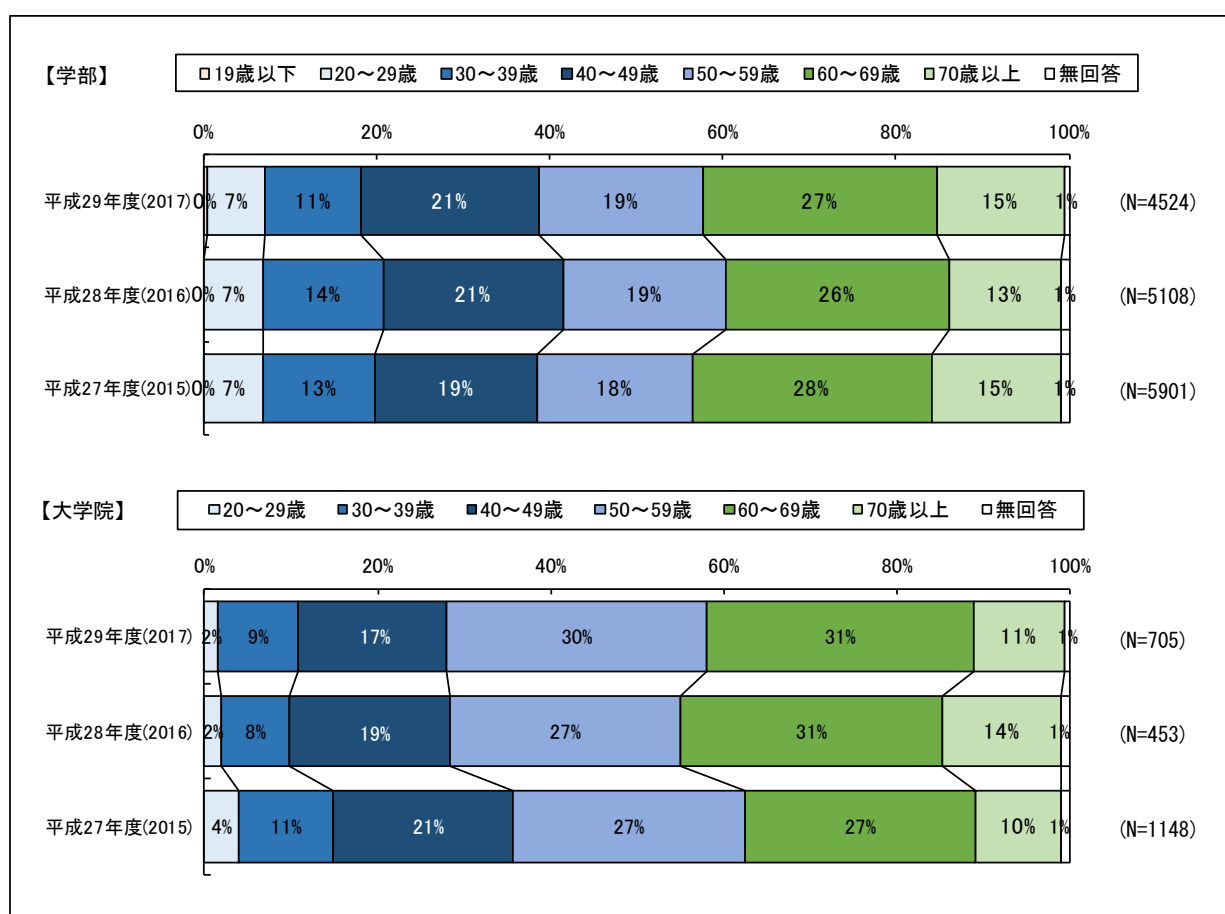
以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらにみていくことにする。

(2) 年齢階層別の分布 (2017年新規開設科目)

年齢階層別に今年度(2017年新規開設科目)の回答者の分布をみると(図1-1)、学部では60歳代が最も多く27%、次いで30歳代が21%、40歳代が19%を占めた。各年度と全体の傾向はあまり変わらないものの、前回の調査と比べると、60歳代と70歳以上がやや増加していた。

大学院では50歳代と60歳代の割合が多く60歳代で31%を占めていた。前回の調査と比べると、40歳代と70歳以上が減少していた。

図1-1 年齢階層別回答者



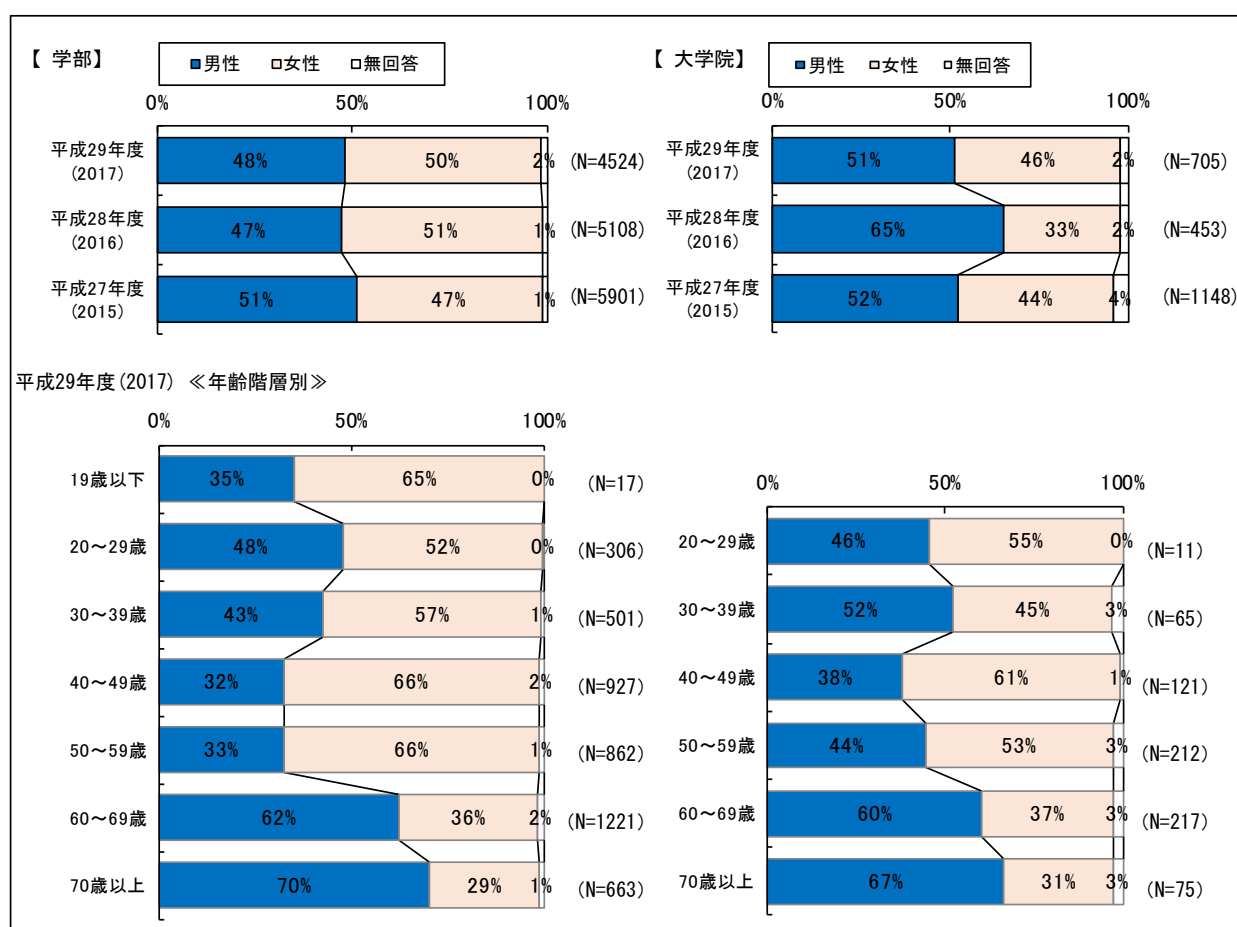
(3) 性別の傾向 (2017年新規開設科目)

学部では「男性」48%、「女性」50%で、昨年の調査に比べると「男性」の割合がやや増えている。また、「女性」が60%以上となったのは19歳以下(65%)と40歳代(66%)、50歳代(66%)で、70歳以上は29%と極端に少なかった(図1-2)。

大学院は、「男性」51%、「女性」46%と「男性」の比率が高く、昨年までの調査と比べると「女性」が+13ポイントと大きな増加がみられた。(反対に男性は14ポイント減)

年齢階層別で最も男女間に差があったのは70歳以上で、男性が67%と女性の2倍以上を占めていた。

図1-2 性別回答者



(4) 職業別分布 (2017年新規開設科目)

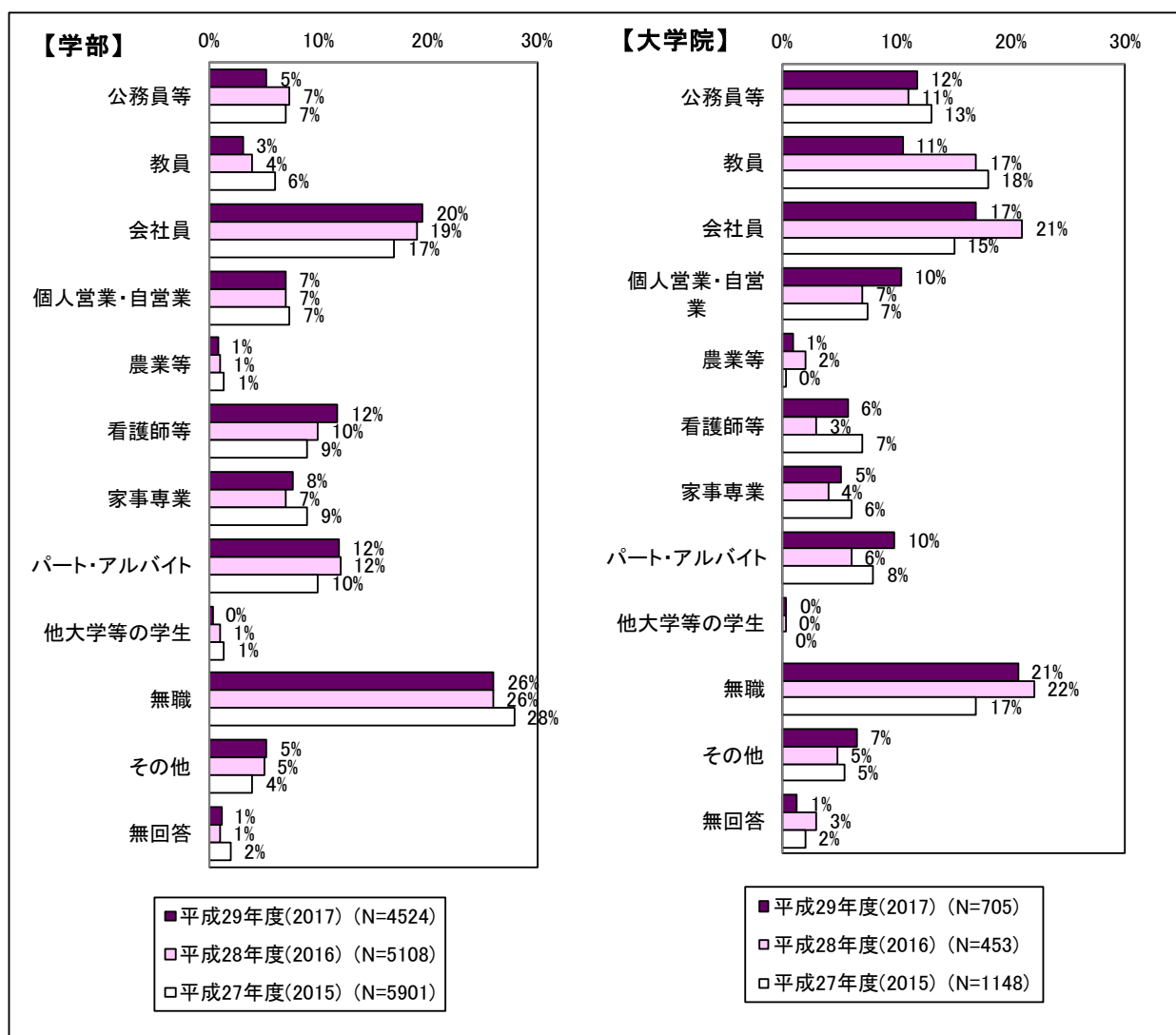
職業別では(図1-3)、学部は「無職」が26%と最も多く、次いで「会社員」20%、「看護師等」と「パート・アルバイト」が共に12%で上位。

時系列でみると、昨年よりも「会社員」「看護師等」の割合がやや増加している。

一方、大学院では「無職」が21%と最多で、次に「会社員」17%、「公務員等」12%「教員」11%と続いた。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているので、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図1-3 職業別回答者

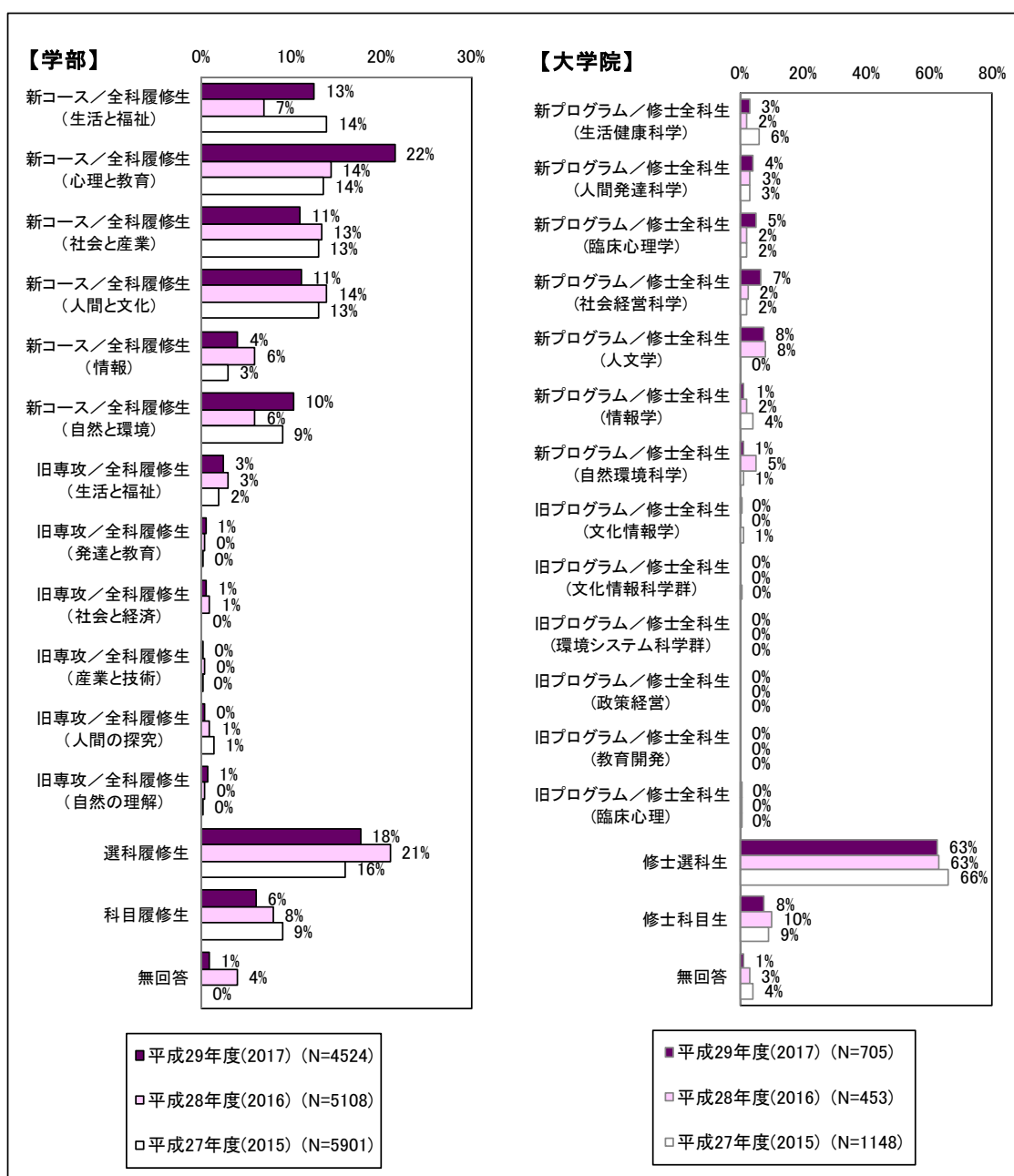


(5) 所属コース（プログラム）別分布（2017年新規開設科目）

次に学生の所属コース（プログラム）別の分布をみると（図1-4）、学部では全科履修生が75%を占め、そのうち新コース所属が71%、旧専攻所属が5%となっている。全科履修生の中では、新コースの「心理と教育」（22%）、「生活と福祉」（13%）、「社会と産業」（11%）、「人間と文化」（11%）が上位を占めた。

大学院では修士選科生が63%を占めており、修士全科生が29%、修士科目生が8%であった。修士全科生の所属プログラムでは「人文学」（8%）、「社会経営科学」（7%）、「臨床心理学」（5%）が上位で、大きな差はみられなかった。

図1-4 学生の所属コース（プログラム）別回答者



I-6. 評価結果の提供と公表

I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という3つの大きな目的のもとに実施開始年度当初に企画された。また、当時の授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) コース主任及びプログラム・コーディネーターへの提供……全てのコース・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教務委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意思決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、13頁～18頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果は授業改善の目的で用いることに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表を強く求められていることから、以下のことを基本的な方針とすることとしている。

(1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

(2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

(3) 公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ及び広報誌「On Air」紙上等で適宜公表することを基本とする。

I-7. その他

オンライン授業科目について

2015年度から開設されたオンライン授業科目については、原則放送授業に準じた授業評価項目をアンケート調査することとしているが、次の理由により全体集計には入れず、「Ⅲ. 自由記述のまとめ」に当該科目の自由記述の集計等を参考情報として掲載するに留める。

- ・調査時期（4～8月中）や方法（オンライン上での調査・集計）が異なること
- ・放送授業と同様に調査できない項目が一部あること（例：印刷教材を作成していない）
- ・対象科目が少ない（学部5科目、大学院5科目）こと

提供資料サンプル【学部】

学部1

2017年度学生による授業評価の調査結果【2017年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○○○○ (R)

(○○○○)

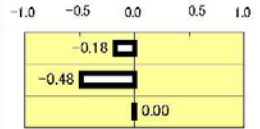
教員氏名 ○○○○

(注)平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

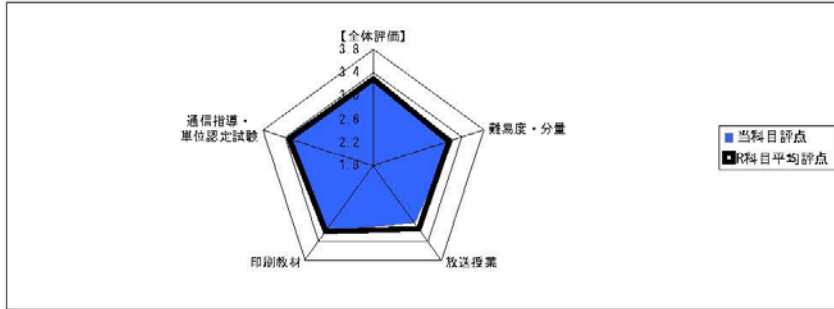
1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点		
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点
取組姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	111	31%	51%	15%	3%	3.10	3.27	3.28
	A-2 放送授業を十分に視聴した	111	14%	29%	26%	32%	2.24	2.86	2.73
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	111	46%	43%	11%	0%	3.35	3.28	3.35

【当科目評点と、R科目平均評点との差】

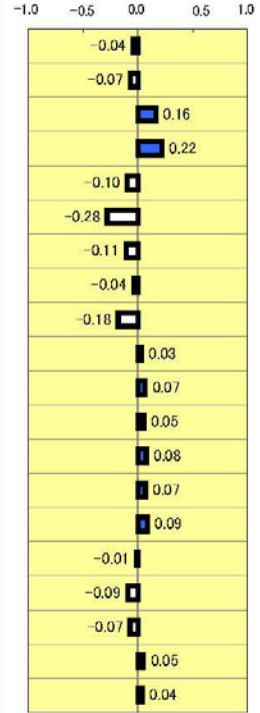


2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点		
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	94	34%	49%	9%	9%	3.09	3.19	3.13
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	93	35%	44%	11%	10%	3.05	3.18	3.12
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	110	45%	51%	4%	1%	3.39	3.22	3.23
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	111	49%	48%	4%	0%	3.45	3.23	3.23
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	86	37%	44%	8%	10%	3.08	3.22	3.18
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	86	36%	41%	12%	12%	3.01	3.33	3.29
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	84	33%	46%	10%	11%	3.02	3.21	3.13
	B-8 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	82	32%	41%	13%	13%	2.91	3.12	2.95
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	86	35%	49%	7%	9%	3.09	3.27	3.27
	B-10 印刷教材の内容は明瞭で説明も分かりやすかった	109	37%	54%	8%	1%	3.27	3.20	3.23
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	106	27%	54%	18%	1%	3.08	3.10	3.01
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	108	41%	50%	9%	0%	3.31	3.25	3.26
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	106	44%	53%	3%	0%	3.42	3.30	3.34
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	107	50%	44%	6%	0%	3.45	3.34	3.38
	B-15 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度を高めるのにふさわしい内容だった	107	44%	46%	8%	2%	3.32	3.18	3.23
全体評価	B-16 授業科目内はこの科目の内容を知る上で役に立った	108	37%	52%	10%	1%	3.25	3.25	3.26
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	110	36%	51%	12%	1%	3.23	3.32	3.32
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	111	43%	52%	5%	0%	3.39	3.46	3.46
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	110	35%	52%	14%	0%	3.21	3.14	3.16
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	110	41%	50%	8%	1%	3.31	3.27	3.27

【当科目評点と、R科目平均評点との差】



3. 回答者の属性（単位：人）

学生種別	全科目履修生(前コース所属)							全科目履修生(旧専攻所属)							全科目履修生(小計)		
	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	情報	自然と環境	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探求	自然の理解					
	40	5	3	3	0	5	8	0	0	0	2	0	66				
													32	6	7	111	
性別	男性	女性	無回答	計													
	20	89	2	111													
年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計								
	1	3	29	27	26	20	5	0	111								
職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大卒等の学生	無職	その他	無回答	計				
	7	2	9	4	1	52	11	9	1	13	1	1	111				
通信指導・単位認定試験	単位認定試験		通信指導		無回答		計										
	106	4	0	1	111												
単位認定のための学習方法	ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ		ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ		放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ		無回答		計								
	3		58		42		8		111								

2017年度学生による授業評価の調査結果【2017年度新規開設科目】（学生種別・通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

学部	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ										A-2 放送授業を十分に視聴した										A-3 印刷教材を熱心に学習した									
	選択肢別の回答割合・回答数					肯定 評価 平均	選択肢別の回答割合・回答数					肯定 評価 平均	選択肢別の回答割合・回答数					肯定 評価 平均												
	4	3	2	1	無回答		4	3	2	1	無回答		4	3	2	1	無回答													
合計(全体)	4524	1941	1876	537	104	66	3.27	4524	1448	1537	930	532	77	24	66%	2.88	4524	1947	1835	577	110	55	1%	84%	3.26					
生活と福祉	568	41%	233	254	61	8	12	3.28	568	27%	154	186	133	82	13	2%	60%	568	42%	240	248	59	12	9	2%	86%	3.28			
心理と教育	973	40%	384	435	117	26	11	3.22	973	30%	295	348	191	127	12	1%	66%	973	41%	397	420	128	20	8	2%	84%	3.24			
社会と産業	498	43%	213	202	66	10	7	3.26	498	31%	156	162	101	69	10	2%	64%	498	41%	204	198	69	19	8	4%	81%	3.20			
人間と文化	502	48%	243	180	67	5	7	3.34	502	36%	179	161	103	50	9	2%	68%	502	46%	232	182	73	7	8	1%	83%	3.29			
情報	186	37%	69	80	28	8	1	3.14	186	30%	56	67	42	21	0	0%	66%	186	36%	67	81	30	8	0	0%	80%	3.11			
自然と環境	464	47%	216	166	58	17	7	3.27	464	36%	165	157	89	47	6	1%	69%	464	46%	212	165	68	15	4	3%	81%	3.25			
生活と福祉	111	29%	32	65	9	3	2	3.16	111	18%	20	42	26	20	3	3%	56%	111	37%	41	56	9	2	3	2%	87%	3.26			
発達と教育	22	32%	7	10	3	2	0	3.00	22	23%	5	5	7	4	1	5%	46%	22	50%	11	7	3	1	0	5%	82%	3.27			
社会と経済	26	39%	10	12	2	2	0	3.15	26	23%	6	9	8	3	0	0%	58%	26	39%	10	12	3	1	0	4%	85%	3.19			
産業と技術	7	57%	4	1	1	0	1	3.50	7	43%	3	2	0	1	1	14%	71%	7	71%	5	1	1	0	0	0%	86%	3.57			
人間の探究	20	50%	10	6	3	0	1	3.37	20	35%	7	6	5	1	1	5%	65%	20	40%	8	10	2	0	0	0%	90%	3.30			
自然の理解	33	27%	9	14	7	2	1	2.94	33	33%	11	10	5	4	3	9%	64%	33	33%	11	12	5	3	2	9%	70%	3.00			
全科履修生 【小計】	3410	42%	1430	1425	422	83	50	3.25	3410	31%	1057	1155	710	429	59	2%	65%	3410	42%	1438	1392	450	88	42	3%	83%	3.24			
選科履修生	801	46%	366	331	80	14	10	3.33	801	35%	279	272	161	75	14	2%	69%	801	46%	368	321	89	13	10	2%	86%	3.32			
科目履修生	274	47%	129	108	29	5	3	3.33	274	37%	101	100	47	24	2	1%	73%	274	46%	127	108	31	7	1	3%	86%	3.30			
単位 受検	3921	45%	1781	1656	402	48	34	3.33	3921	34%	1319	1358	770	427	47	1%	68%	3921	45%	1782	1602	455	53	29	1%	86%	3.31			
単位 未受検	324	24%	77	135	77	24	11	2.85	324	19%	60	116	93	47	8	3%	54%	324	25%	80	131	76	29	8	9%	65%	2.83			
通信指導 試験 ・ 通信指導未提出	151	20%	30	36	42	28	15	2.50	151	21%	31	26	37	42	15	10%	38%	151	17%	25	36	21	17	9%	53%	2.58				

(注) 1. 「選択肢別の回答割合」は、小数字以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。
 2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。
 3. 評価については、選択肢「あてはまる」：4点「ややあてはまる」：3点「あまりあてはまらない」：2点「あてはまらない」：1点として算出した。

提供資料サンプル【学部】

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(学部)

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(あてはまる番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	[全科履修生 新コース所属の方] 1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 情報 6. 自然と環境 [全科履修生 旧専攻所属の方] 7. 生活と福祉 8. 発達と教育 9. 社会と経済 10. 産業と技術 11. 人間の探究 12. 自然の理解 [選科履修生・科目履修生] 13. 選科履修生 14. 科目履修生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。

〈参考までによろしければ以下についてもお答えください〉

この授業科目を学習するきっかけとして、本学の告知番組『授業科目案内』（テレビ又はラジオ）を視聴して決めましたか？
(1. はい ・ 2. いいえ)

提供資料サンプル【大学院】

大学院1 2017年度学生による授業評価の調査結果【2017年度新規開設科目】（単純集計）

コース・プログラム等 ○○○○

科目名（コード） ○○○○○○

(○○○○)

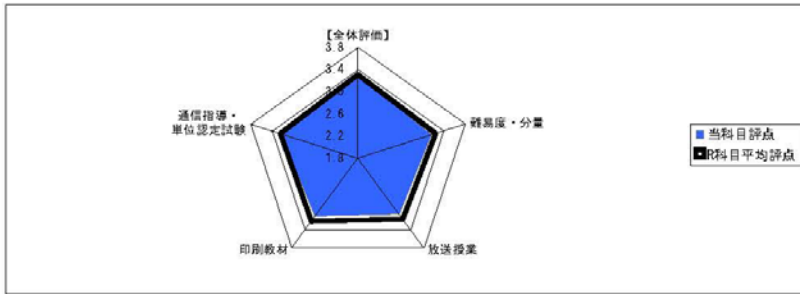
教員氏名 ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
取組み姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	57	46%	47%	5%	2%	3.37	3.38	3.33	0.04
	A-2 放送授業を十分に視聴した	57	26%	35%	28%	11%	2.77	3.01	2.89	-0.12
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	57	46%	46%	7%	2%	3.35	3.35	3.34	0.01

2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、R科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	54	43%	43%	9%	6%	3.22	3.31	3.23	-0.01
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	54	37%	46%	13%	4%	3.17	3.28	3.20	-0.03
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	56	34%	50%	11%	5%	3.13	3.33	3.31	-0.19
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	56	43%	38%	14%	5%	3.18	3.31	3.28	-0.10
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	52	33%	48%	15%	4%	3.10	3.23	3.14	-0.05
	B-6 講師の態度が十分に伝わった	53	42%	45%	9%	4%	3.25	3.44	3.38	-0.14
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	54	31%	46%	15%	7%	3.02	3.23	3.14	-0.12
	B-8 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	50	30%	38%	16%	16%	2.82	3.11	2.96	-0.14
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	52	40%	48%	10%	2%	3.27	3.28	3.27	0.00
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	55	27%	51%	18%	4%	3.02	3.23	3.22	-0.20
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	54	26%	46%	24%	4%	2.94	3.14	3.09	-0.14
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	55	40%	38%	18%	4%	3.15	3.26	3.25	-0.10
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	53	36%	51%	13%	0%	3.23	3.30	3.24	-0.02
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	54	35%	56%	7%	2%	3.24	3.31	3.30	-0.06
	B-15 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度を試すのにふさわしい内容だった	52	38%	48%	12%	2%	3.23	3.21	3.20	0.03
全体評価	B-16 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	55	47%	35%	15%	4%	3.25	3.28	3.29	-0.04
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	55	51%	36%	9%	4%	3.35	3.42	3.37	-0.02
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	56	68%	25%	4%	4%	3.57	3.52	3.46	0.11
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	56	36%	43%	16%	5%	3.09	3.25	3.19	-0.10
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	56	43%	41%	11%	5%	3.21	3.32	3.27	-0.05

3. 回答者の属性（単位：人）

学生種別	修士全科目生(新プログラム所属)										修士全科目生(旧プログラム所属)			計		
	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	人文学	情報学	自然環境科学	文化情報学	文化情報科学	環境システム科学	政策経営	教育開発	臨床心理		修士全科目生(旧プログラム所属)	
	15	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	19		
													修士全科目生	修士科目生	無回答	計
													31	1	6	57

性別	男性	女性	無回答	計
		20	35	2

年齢	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答	計
		0	3	5	19	18	8	3	1

職業	公務員等	教員	会社員	個人事業・自営業	無業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学の学生	無職	その他	無回答	計
		3	10	7	3	0	18	2	2	0	4	7	1

通信指導・単位認定試験	通信指導		未提出	無回答	計	単位認定のための学習方法	ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ	ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ	放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ	無回答	計
	受験	未受験									
	48	6	2	1	57	2	18	33	4	57	

2017年度学生による授業評価の調査結果【2017年度新規開設科目】（学生種別・通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

大学院

学生種別	科目	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ					A-2 放送授業を十分に視聴した					A-3 印刷教材を熱心に学習した														
		回答数		選択肢別の回答割合・回答数		肯定評価平均	回答数		選択肢別の回答割合・回答数		肯定評価平均	回答数		選択肢別の回答割合・回答数		肯定評価平均										
		4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答										
合計(全体)		705	50%	40%	8%	2%	1%	90%	3.39	705	35%	34%	19%	11%	2%	68%	2.94	705	53%	35%	10%	2%	1%	87%	3.39	
	生活健康科学	21	24%	43%	24%	5%	1%	67%	2.90	21	14%	29%	48%	10%	0%	43%	2.48	21	38%	24%	8%	0%	0%	0%	76%	3.14
	人間発達科学	29	41%	35%	21%	3%	0%	76%	3.14	29	28%	41%	21%	10%	0%	69%	2.86	29	55%	24%	17%	3%	0%	79%	3.31	
	臨床心理学	35	46%	40%	14%	0%	0%	86%	3.31	35	31%	40%	26%	3%	0%	71%	3.00	35	54%	37%	6%	3%	0%	91%	3.43	
	社会健康科学	46	59%	35%	4%	2%	0%	94%	3.50	46	44%	26%	15%	11%	4%	70%	3.07	46	50%	35%	11%	0%	4%	85%	3.41	
	人文学	53	59%	38%	4%	0%	0%	96%	3.55	53	53%	30%	13%	4%	0%	83%	3.32	53	62%	32%	6%	0%	0%	94%	3.57	
	情報学	9	67%	0%	22%	11%	0%	67%	3.22	9	22%	11%	11%	56%	0%	33%	2.00	9	56%	22%	11%	11%	0%	78%	3.22	
	自然環境科学	6	17%	50%	17%	17%	0%	67%	2.67	6	0%	33%	0%	67%	0%	33%	1.67	6	50%	17%	33%	0%	0%	67%	3.17	
	文化情報学	1	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0.00	1	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0.00	1	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2.00	
	文化情報科学群	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	
	環境防災科学群	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	
	政策経営	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	
	教育開発	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	
	臨床心理	2	50%	50%	0%	0%	0%	100%	3.50	2	50%	0%	50%	0%	0%	50%	3.00	2	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%	3.00
	全科履修生	202	49%	36%	11%	3%	1%	85%	3.33	202	36%	31%	20%	11%	2%	67%	2.94	202	53%	33%	12%	2%	1%	86%	3.39	
	【小計】	99	73	23	5	2	0	92%	3.40	441	34%	33%	20%	11%	2%	67%	2.91	441	52%	36%	10%	2%	1%	87%	3.39	
	選科履修生	54	56%	35%	7%	0%	2%	91%	3.49	54	35%	41%	15%	6%	4%	76%	3.10	54	57%	33%	6%	2%	2%	91%	3.49	
	科目履修生	621	53%	39%	7%	1%	1%	92%	3.44	621	36%	34%	18%	10%	2%	70%	2.98	621	56%	34%	8%	1%	1%	90%	3.46	
	単位受検	50	34%	52%	12%	2%	0%	86%	3.18	50	24%	34%	34%	8%	0%	56%	2.74	50	22%	46%	32%	0%	0%	68%	2.90	
	単位未受検	22	18%	27%	27%	23%	5%	46%	2.43	22	5%	27%	32%	32%	5%	32%	2.05	22	23%	23%	27%	23%	5%	46%	2.48	
	通信指導未出席	4	6	6	5	1	1	6	7	1	6	7	7	7	1	1	1	1	5	5	6	6	5	1	1	

(注) 1. 「選択肢別の回答割合」は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。
 2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。
 3. 「評価点」については、選択肢「あてはまる：4点」「ややあてはまる：3点」「あまりあてはまらない：2点」「あてはまらない：1点」として算出した。

提供資料サンプル【大学院】

Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

(大学院)

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見や感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(あてはまる番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	[修士全科生 新プログラム所属の方] 1. 生活健康科学 2. 人間発達科学 3. 臨床心理学 4. 社会経営科学 5. 人文学 6. 情報学 7. 自然環境科学 [修士全科生 旧プログラム所属の方] 8. 文化情報学 9. 文化情報科学群 10. 環境システム科学群 11. 政策経営 12. 教育開発 13. 臨床心理 [修士選科生・修士科目生] 14. 修士選科生 15. 修士科目生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()

どうもありがとうございました。

<参考までによろしければ以下についてもお答えください>

この授業科目を学習するきっかけとして、本学の告知番組『授業科目案内』（テレビ又はラジオ）を視聴して決めましたか？
(1. はい ・ 2. いいえ)